

(様式1)市町村の概要等

		23	彦根市
計画提出日(最終変更)		都道府県	滋賀県
1. 市町村の概要		<p>滋賀県彦根市は、江戸時代に彦根藩井伊家35万石の城下町として本格的な歩みを始め、開国を英断し、今日の日本の礎をつくった井伊直弼を育てたまちとして、琵琶湖と鈴鹿山系の豊かな自然に恵まれ、歴史的な面影とともに、中世から近世にかけての貴重な歴史遺産を数多く残しており、昭和12年に市政施行以来現在に至るまで、琵琶湖東部の中心として発展を続け、市域98.15km²、人口11万人の都市であります。</p> <p>位置的には琵琶湖東部に位置し、直線距離で大阪市へ約100km、名古屋市へ約60km、福井市へ約90kmの位置にあり、京阪神、中京、北陸の3経済圏の結節点となっています。</p>	
2. 中心市街地の概要	(1) 現状	<p>居住人口 中心市街地 (11,352人 10,379人) -973人 (-8.6%) (H10 H16) 市全域 (105,855人 109,280人) +3,425人 (+3.2%)</p> <p>商店数 中心市街地 (473店舗 451店) (-4.7%) (H9 H11) 市全域 (1,343店舗 1,304店) (-2.9%)</p> <p>年間販売額中心市街地 (34,932百万円 31,499百万円) (-9.8%) (H9 H11) 市全域 (150,925百万円 143,899百万円) (-4.7%)</p>	
	(2) 位置及び区域	<p>彦根城南東・南西の中壕から、JR琵琶湖線と芹川に挟まれるV字型のエリアで、JR彦根駅前から彦根城に至る地区では、土地区画整理事業や街路整備事業により「駅前お城通り(道路愛称)」として整備、北西部の彦根城京橋口から南側へ続く地区では、「夢京橋キャッスルロード」が整備を終えようとしており、それにつながる市場・銀座商店街付近から市街地軸の整備を図り、回遊軸内の相互連結を図ろうとする区域の活性化を図るため、中心市街地の区域としました。</p>	
	(3) おおむねの面積	約150ha	
3. 基本的な方向		<p>1. 中心性の創出 まちづくり・人づくり・豊かな心づくり・都市の舞台づくりをねらいとして都市基盤施設を充実し、快適で魅力ある街づくりを進める。 商店街施設の整備・改善を図り、快適性・利便性を高める。 商店街の個性化を進める。 経営者の育成・養成を進め、競争力を高める。 安全で快適な文化の香り高い住宅地を再生し、街なか人口を回復する。 混在型の複合的都市機能を誘導して都会のオアシスとしてのリラクゼーション性を高める。 地域コミュニティの醸成と情報化社会に対応した地域づくりを進める。 高齢者や子どもが生きがいや楽しさを感じられる都市環境づくりを進める</p> <p>2. 歴史的景観や生活文化を生かしたまちづくり "彦根ならではの"の強調・まちの美づくりをねらいとして城下町として歴史的遺産を活用して町並みの統一美と個性づくりを進める。 伝統工芸・特産品など彦根独自の地域文化を生かした産業の発展を図る。</p> <p>3. にぎわいネットワーク 出合いづくり・人の輪づくりをねらいとして彦根城観光との回遊性を高め、街なか観光を育てる。 幹線道路体型の充実や安全で楽しい歩行者路のネットワーク化により、アクセス性と回遊性を高める。</p>	
4. 計画の特徴		<p>1. 実行性の高い基本計画 彦根市では、郊外への大型店の進出やロードサイドショップ等の進展により、中心市街地の商業の衰退が進んできたことから、彦根市と彦根商工会議所が中心となり、「彦根市中心市街地再生事業委員会」を組織し、平成9年3月に「彦根市中心市街地まちづくり構想-報告書」をまとめており、実現可能なプランづくりと、地域のまちづくりに対する意欲の増進を進め、平成11年1月に彦根市中心市街地活性化基本計画を策定した。策定から6年が経過し、花しょうぶ通り商店街をはじめ4商店街でファサード整備事業が、1商店街でアーケードの整備事業が、1商店街で駐車場整備事業が実施され、また、街路事業も徐々にではあるが整備が進んでいる。また、キャッスルロードに隣接する「四番町スクエア」では、街並み整理事業により、パティオや道路、街なか情報センター等の整備事業等、まちづくりが進んできていること、自転車による観光やユビキタス技術を活用した観光といった取り組みも行われつつあることから、基本計画を一部見直し、新規事業も加え、より実効性のある計画を策定したものであります。</p> <p>2. 歴史・文化の保存活用に重点 彦根市の中心市街地は、彦根城が築城された時に形成された、かつての城下町のほぼ全域を区域としており、江戸時代から中心市街地として今日まで受け継がれてきた街であります。そうした歴史文化都市としての認識をさらに高める街づくり計画として、街なか回遊性の創出に重点を置いたまちづくり計画であり、「み・わ・くのまちづくり」を目指して長期的視点も考慮した計画であります。</p>	